

寅さん歩 その 15

江戸・東京(23区)の百名山-16

平野 武宏



深田久弥提唱の「日本百名山」は山男や山ガールが入門書や目標としています。昔の友人もはまっていましたが、山の上があまり好きでない寅次郎は興味を示さず、ウォーキングの世界に入りました。NHKBS放映「グレートトラバース-2」で「日本百名山」踏破後、「日本二百名山」を一筆書きで、交通機関を使わず、自分の足のみで踏破しているプロアドベンチャーレーサーの姿を知りました。(平成28年9月22日放映終了)4年前に東京に移り住み、都内を歩き回っている寅次郎、図書館で「江戸・東京百名山に行く(手島宗太郎著)」を見つけ、アイディアをいただきました。「山の日」祝日実施記念として踏破に挑戦したい気持ちになりました。

著者手島氏の選んだ「百名山」は現存しない山や富士塚も含まれていますが、最高峰は新宿区44.6mの箱根山と知り、自分の足だけなどと言わずに、東京都シルバーパスも活用し、楽しみながら、踏破する新シリーズとします。位置関係が分かるように、数の多い23区順に紹介します。最終回の今回は豊島区の2山と中野区、板橋区の各1山です。数字は踏破した数の累計です。最寄り駅は代表例で、都営はシルバーパス使用可です。

[豊島区]

97. 長崎富士

高松2丁目41 富士浅間神社内

最寄駅 東京メトロ有楽町線 要町駅

駅から進行方向にバス停「要小」まで行き、右折し、千川1丁目に来たら右折すると左側が「豊島長崎の富士塚」です。説明板によると「文久2年(1862年)に豊島長崎村の椎名町元講の人々に寄り築造。高さ約8m、直径約21mで表面は富士山の溶岩(ボク石)で覆われています。

都内にある江戸時代に築造された富士塚でよく原型をとど

めていと、昭和 54 年（1979 年）5 月に国の重要有形民俗文化財に指定」と記載。普段は写真下左のようにフェンスに施錠してありますが、寅次郎、豊島区の「文化財散歩」に参加した時、上ったことがありました。当時の写真です。



写真上は山頂の祠、右は山頂から下をのぞく。
寅さん歩 その 9 東京の富士塚めぐり-3 を参照ください。

98. 池袋富士

池袋本町 3 丁目 14 氷川神社内
最寄駅 東武東上線 下板橋駅

説明板によると「明治 45 年（1912 年）池袋月三十七夜元講により築かれたもので、高さ約 5m、東西幅約 13m、南北幅約 18m、全山ボク石で覆われている」と記載。

社殿の左が富士塚（写真下左）、富士塚入口には「お山にのぼらないでください」の注意書きがありました（下右）



寅さん歩 その9 東京の富士塚めぐり-3
を参照ください。

〔中野区〕

99. 大名山

中野3丁目28辺り 最寄駅 中央線 中野駅

駅南口を出て、右手にある「RENGAZAKA(煉瓦坂)」を上り、突き当りを左折、下った辺りが3丁目28です。山の面影はわずかに坂のよる高低差で残されていました。江戸時代には桃が植えられ「桃の里」だったとのこと。



〔板橋区〕

100. 板橋・大山

加賀 1 丁目 8 加賀公園内 最寄駅 埼京線 板橋駅

岡山藩池田家の下屋敷の「池田山」から始まった「江戸・東京（23 区）100 名山」のアンカーは**加賀百万石の前田家の板橋下屋敷**内の「板橋・大山」です。前田家にとっては中山道の板橋宿は参勤交代で往復する通り道です。桜の名所の石神井川を敷地内に持つ、広大な下屋敷跡は加賀公園として一部が残されています。写真下左は上り口、右は山頂です。



説明板によると「江戸時代に成立した参勤交代制度により、江戸には日本各地から多くの大名が集まり、その家族や藩士、奉公人などと共に日常生活を送っていました。そして、各大名には将軍より屋敷地が下賜されました。

延宝 8 年(1680 年)の段階で、加賀藩前田家は本郷邸(現東京大学周辺)を上屋敷、駒込邸(現本駒込 6 丁目周辺)を中屋敷、板橋宿に面する平尾邸(現加賀 1・2 丁目周辺)を下屋敷に定めています。上屋敷は藩主と家族が住む公邸、中屋敷は隠居した藩主などの住居に利用しました。

下屋敷の平尾邸(写真上左)は約2万8千坪に及ぶ広大な敷地で大池や築山などのある池泉回遊式庭園で藩主と家族の別荘として使われました。幕末には邸内で石神井川の水流を利用した大砲の製造、明治以降は火薬を製造する「板橋火薬製造所」となります。平尾邸の面影はわずかにここ加賀公園に残る築山の一部だけとなっています」と記載。

【こぼれ話】 中野犬屋敷



中野駅北口の中野区役所前にある説明板によると「五代将軍徳川綱吉が設けた幕府野犬保護施設で犬を囲って飼育したことから「お囲い御用屋敷」とも言いました。中野4丁目辺りの旧町名「囲町」はこれに由来しています。綱吉は「生類憐みの令」によって殺生を禁じた。特に犬の保護策を強行して、江戸郊外の中野に最も大規模な犬屋敷を造らせ、支配役下、多数の役人や医者を置いて、野犬の飼育に当らせました。犬小屋は元禄8年(1695年)末に収容を開始し、綱吉の死去により宝永6年(1709年)に廃止されるまで15年間存続しました。敷地は現在の区役所を中心にJR中央線を挟んで約30万坪(100ヘクタール)におよび5つのお囲いには各数百棟の戌小屋・餌場・日除場・子犬飼育場などがあり、最盛期には10万頭以上、飼育費は年額9万8千両以上に達しました。その後、幕府は方針を変えメス犬の収容を主体に他は近在の農家に養育費をつけて預けることにしました。犬屋敷の膨大な費用は江戸の商家や農民の負担で賄われました」と記載。

説明板の左にはある像（写真上）は犬かと思ったらライオンズクラブ寄贈の「ライオン像」でした。

〔百名山全山踏破を終えて〕

「山の日」祝日実施記念として始めた「江戸・東京（23 区）百名山」は延べ 84 時間（1 日約 6 時間として約 14 日相当）、延べ 179 k m で全山踏破しました。但し、山頂まで上れなかった山もありました。現存していない山や初めて訪れる山もあり、探すのに苦労したり、写真撮影で場所の高低差を出すことや人が写らないようにとシャッターチャンスを待ったりしました。何度も訪れていた場所もありましたが、山の意識で見えていませんでしたので、又、新しい東京を知ることが出来た感があります。全踏破にお付き合い、いただきありがとうございます。

桜や紅葉の時期に企画したら良かったかと思いましたが、残り少なくなった人生、思い立ったら、すぐに実行のせっかちな寅次郎ですので、ご容赦ください。

桜や紅葉は「寅さん歩」に掲載の「東京の桜」や「紅葉・黄葉」を参照ください。又、富士塚については「東京の富士塚めぐり」を参照下さい。

〔番外編〕

東京 23 区の百名山の著者の手島氏の決めた百名山に「足立区」、「杉並区」、「葛飾区」、「墨田区」の山がありませんでした。寅次郎の独断で追加してみました。

〔足立区〕

101. 花又富士（花畑富士）

花畑 5-1—1 花畑神社

最寄駅 東武伊勢崎線 竹ノ塚駅東口からバス利用

終点の「花畑団地」で下車。すぐ先は埼玉県で都内最北端にある富士塚で、地名の「花畑富士」とも呼ばれています。

高さ約 6m です。寅次郎、富士塚めぐりで平成 25 年（2013 年）に訪れています。寅さん歩 その 9 東京の富士塚めぐり-8 を参照ください。



〔杉並区〕

102. 浜田山

浜田山 4 丁目 5-5 辺り

最寄駅 京王井の頭線 西永福駅



現在の井の頭通りにある杉並南郵便局辺り（写真左）で海拔 42m の地点が「浜田山」だったとのこと。現在も町名になって残されています。

〔葛飾区〕

103. 金町富士

東金町 6-10-5 葛西神社内 最寄駅 常磐線 金町駅

「葛西ばやし」で有名な「葛西神社」境内に高さ約 2.5m の富士塚があります。

寅次郎、平成 25 年（2013 年）訪問、登頂しています。

寅さん歩 その 9 東京の富士塚めぐり-6 を参照ください。



〔墨田区〕

104. 東京スカイツリー

押上 1-1-2 最寄駅 都営浅草線 押上駅/
東武スカイツリーライン
とうきょうスカイツリー駅

墨田川、荒川、中川に囲まれた墨田区には山も富士塚もありません。区東部は海拔ゼロメートル地域ですが、平成 24 年（2012 年）5 月には地上デジタル放送用タワー 東京スカイツリー（高さ 634m）が開業しました。開業と同じ時期に東京に移住した寅次郎、平成 28 年（2016 年）1 月、エレベーターで上りました。写真下右は展望台から見た隅田川周辺で中央は桜橋です。



別添の江戸・東京(23区)百名山掲載一覧表を参照ください。

次回は 江戸・東京の祭-53 (江戸らしい祭-23) です。

平野 寅次郎 拝